

皮膚科

臨床研修期間（2年間）		専門医研修期間（標準3年間）								
病院名（60病院）	医療圏		基幹施設名(5病院)		2次医療圏	地域群	基幹・連携施設名		2次医療圏	地域群
横浜労災病院	横浜	⇒	北里大学病院	相模原	B	相模野病院	相模原	B		
昭和医科大学藤が丘病院						衣笠病院	横須賀・三浦	B		
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院						大船中央病院	横須賀・三浦	B		
横浜旭中央総合病院						大和市立病院	県央	B		
菊名記念病院						座間総合病院	県央	B		
汐田総合病院						海老名メディカルプラザ	県央	B		
昭和医科大学横浜市北部病院						綾瀬厚生病院	県央	B		
済生会横浜市東部病院						横浜労災病院	横浜	C		
済生会横浜市南部病院						横浜医療センター	横浜	C		
横浜南共済病院						湘南大礎病院	湘南西部	B		
横浜栄共済病院			秦野赤十字病院	湘南西部	B					
横浜市立大学附属病院			横浜	C	小田原市立病院	県西	A			
横浜市立みなと赤十字病院					横須賀共済病院	横須賀・三浦	B			
横浜市立大学附属市民総合医療センター					横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B			
横浜中央病院					藤沢市民病院	湘南東部	B			
けいゆう病院					茅ヶ崎市立病院	湘南東部	B			
横浜医療センター					平塚共済病院	湘南西部	B			
横浜市立市民病院					横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C			
国際親善総合病院					神奈川県立こども医療センター	横浜	C			
戸塚共立第1病院					横浜南共済病院	横浜	C			
東戸塚記念病院	済生会横浜市南部病院	横浜			C					
聖隷横浜病院	横浜栄共済病院	横浜	C							
帝京大学医学部附属溝口病院	横浜市立市民病院	横浜	C							
聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C	相模原病院	相模原	B					
川崎市立多摩病院			関東労災病院	川崎南部	C					
新百合ヶ丘総合病院	川崎北部	C	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	横浜	C					
虎の門病院分院			川崎市立多摩病院	川崎北部	C					
関東労災病院	川崎南部									
川崎市立川崎病院										
医療法人社団こうかん会日本鋼管病院										
川崎協同病院										
川崎市立井田病院										
日本医科大学武蔵小杉病院										
川崎幸病院										
相模原病院	相模原									
北里大学病院										
相模原協同病院	横須賀・三浦									
横須賀市立総合医療センター										
横須賀共済病院										
横須賀市立市民病院										
湘南鎌倉総合病院										
大船中央病院	湘南東部									
藤沢市民病院										
湘南藤沢徳洲会病院										
藤沢湘南台病院										
湘南東部総合病院										
茅ヶ崎市立病院	湘南西部									
平塚市民病院										
平塚共済病院										
東海大学医学部付属病院										
伊勢原協同病院										
秦野赤十字病院	県央									
大和市立病院										
海老名総合病院										
厚木市立病院										
東名厚木病院										
湘南厚木病院	県西									
小田原市立病院										
山近記念総合病院										
神奈川県立足柄上病院										

地域実践標準4年（専門研修を希望しない場合は7年間）					
医療圏2	地域群	医療機関名	病床数	受入希望理由(病院説明事項)	キャリア形成に係るメリット(病院説明事項)
県西	A	神奈川県立足柄上病院	296	県西医療圏でも高齢化・人口減少が進んでいるが、医療需要は幅広くあり、特に救急医療の維持には人員が必要であるため。	足柄上病院は、新専門医制度における内科と総合診療科の基幹施設であり、generalな力を持った指導医も在籍している。 皮膚科:アレルギー性、感染性、腫瘍性、物理化学障害性など多岐に渡る皮膚疾患を診療する。
湘南東部	B	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	419	神奈川県湘南東部地域の地域医療を支える当院救急や感染症チーム、およびそのバックアップとしての臨床はもちろん、県下での臨床教育に意欲のある若手医師の採用を積極的に行いたい。層の厚い当院の屋根瓦式教育は、次世代の地域医療を担っていく若手～中堅医師のニーズに沿った良質な研修/指導環境が提供できていると自負している。	当院では日常遭遇する疾病と障害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み絶えざる自己研鑽を重ねながら、地域で生活する医師を生活する人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する医師を育成します。また辻堂駅すぐの立地で、敷地内には職員専用の保育園があります。
湘南東部	B	茅ヶ崎市立病院	401	—	—
湘南西部	B	東海大学医学部付属病院	804	本院が属する神奈川県西部地域は県内でも相対的に医師不足地域であり、将来に渡り、地域医療に貢献する医師の育成と確保を図るため。	特定機能病院として高度医療を提供すると共に、神奈川県ドクターヘリを運用する高度救命救急センターを併設しています。また、総合周産期母子医療センターや造血幹細胞移植地域拠点病院、地域がん診療連携拠点病院として、専門的治療を行っています。
横浜	C	昭和医科大学横浜市北部病院	689	—	—
横浜	C	昭和医科大学藤が丘病院	584	当院は1975年の開院から40年以上が経過し、耐震化や医療の高度化に向けて再整備計画をすすめています。再整備にあたっては、2018年10月に昭和大学、横浜市、東急電鉄の三者で「藤が丘駅周辺の新たなまちづくりの推進に関する協定」を締結し、駅前施設・公園・病院が一体となったまちづくりに取り組むことになりました。そのような状況下で今後ますます当院に対する期待が高まることが予想され、その期待に応えるためにもより多くの優れた医師を養成したいと考えているからです。	当院は大学附属病院としての高度な医療水準を保ちつつ、急性期医療から難病、リハビリテーションまで様々な疾患を多数診療しています。そのため多彩な症例を数多く経験することができます。大学病院でありながらも各診療科間・各部門間の垣根が低く、コミュニケーションがとりやすい環境の中で患者さん中心のチーム医療を実践しています。
横浜	C	済生会横浜市東部病院	562	—	—
横浜	C	横浜市長大学附属市民総合医療センター	655	—	—
横浜	C	横浜市長市民病院	650	2020年5月に新病院が開院するにあたり、多くの診療科で医師の増員を希望しています。また、地域枠の先生は定着率が高いとっており当院で意欲的に勤務していただけることを期待しています。	当院は横浜市の基幹施設として急性期医療に積極的に取り組むとともに、救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センター、そして2019年4月からはがんゲノム医療連携病院に指定されているなど、日常よく遭遇するcommon diseaseから高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます。また各分野の専門医にコンサルテーションができ、直接の指導を受けることができます。2020年5月には新病院が開院しますので、やる気のある先生方をお待ちしています。ぜひ一緒に新病院で頑張りましょう。
横浜	C	社会福祉法人 親善福祉協会 国際親善総合病院	287	外科、内科、泌尿器科、整形外科、眼科には既に大学人事での専攻医が所属し、他の診療科にも指導体制が整備されているが、いずれの診療科も医師不足である。	横浜市2次救急拠点病院Aとして年間5,000件以上の救急搬送を受け入れ、地域の中核病院として多くのcommon diseaseに対応している。産科では無痛分娩を積極的に行ない、分娩数の約半数を占めている。緩和ケア病棟を備え、診断から緩和までチームレスながん医療を展開している。泌尿器科、外科、婦人科ではロボット支援手術を積極的に行なっている。
横浜	C	公立大学法人 横浜市長大学附属病院	671	—	女性医師支援をはじめ、働きやすい環境づくりのための各診療科会議の運用や各種制度の周知などを行っています。
横浜	C	社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市南部病院	500	当院は横浜市大関連施設であるため、専門研修ローテーションを含め、医師の赴任離任は大学人事に依り行われているためです。	当院は指導体制も含め各診療科は横浜市大各教室と連携を密にしております。このことからとくに、指導医が複数の診療科ではサブスペシャリティの指導体制も充実しております。
川崎北部	C	医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院	563	希望する診療科それぞれにおいて人員体制を強化し、診療体制を充実させ、その中で若手医師を育成し、神奈川県内の地域医療に貢献したいと考えています。	「地域医療への貢献」、「高度先端医療の実践」、「最良の安心を得られる医療」を目標に掲げ、救急患者を積極的に受け入れており、様々な救急疾患に対応できる能力を養うことができます。また最先端の医療機器を備え、高度な先進医療や予防医学を実践し、がん診療にも貢献しています。常勤医師220名超体制のもと、研修体制が充実しており、働き方改革に沿った勤務ができます。